

馬込半白キュウリのハウス栽培における播種期が収量および収穫期間に及ぼす影響

遠藤拓弥・沼尻勝人・海保富士男・木下沙也佳・野口 貴\*  
(園芸技術科) \*現島しよセ八丈

【要 約】馬込半白キュウリの収穫適期は5月中旬～7月中旬および9月下旬～11月中旬であり、これに対応する播種期は3月上旬と6月中旬である。無加温半促成栽培に加えて、抑制栽培も可能であることが明らかになった。

【目 的】これまでに、馬込半白キュウリ（以下「馬込半白」とする）については、台木の影響や他の半白キュウリとの特性比較をしてきた。ハウス栽培では3月まきで収量調査を行ったが、他の播種期では調査していない。本試験では3月以外での播種期も調査し、収量および収穫期間から適切な播種期を定め、栽培マニュアル作成の基礎的資料とする。

【方 法】

1. 「馬込半白」を①2019年3月8日，②4月8日，③5月8日，④6月14日，⑤7月9日の5回に分けて播種を行い，株間80cm，栽植密度960株/10aで①2019年4月5日，②5月7日，③5月31日，④7月11日，⑤8月2日に定植した（表1）。仕立てはアーチパイプを使用したネット仕立てで半放任栽培し，pH値は2.0程度になるよう灌水管理を行った。なお，定植後の保温のための被覆はしなかった。

【成果の概要】

1. 可販果数（A品＋B品）は6月下旬まで増加傾向があり，その後は漸減した（図1：上図）。7月下旬～9月中旬では全区とも少なく，5月播種では可販果が10本/株を超える時期はなかった。5月下旬～7月下旬の日長時間は14時間を超え，7月に入ると雌花数が減少しているため，長日が雌花着花に影響を及ぼしていると考えられる（図2）。下物果の割合では8月中旬～9月上旬が高く，可販果数は夏期が過ぎると再び増加し始め11月中旬にピークとなった（図1：上図・下図）。7月上旬～8月末では最高気温35℃を超える日が続いたため，果実生育に影響を与えていたと考えられる（図3）。
2. 可販果の収量において，6月下旬までは2 t/10aを収穫できるが，夏期では全区とも1 t/10a未満しか収穫できなかった（図3）。夏期を過ぎると収量が増加し，11月中旬でピークとなり2.5 t/10aほど収穫できた。また，3月8日および6月14日播種では110日間にわたり収穫することができた。

【残された課題・成果の活用・留意点】

可販果数および収穫期間を考慮すると，「馬込半白」は3月上旬および6月中旬の播種期が適している。また，6月中旬まきにおいて晩秋まで収穫でき，秋期では苦味がないことを確認した。一方，高温期では苦味および渋味の発生を確認した。これまでの試験結果を基に，作付け計画を含む江戸東京野菜主要5品目・栽培マニュアルを作成する。

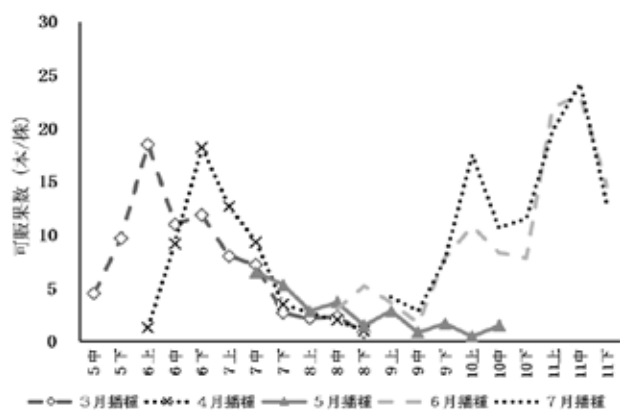


表1 各播種日の定植日,収穫開始および終了日

播種日	定植日	収穫開始日	収穫終了日
①	3/8	4/5	5/15
②	4/8	5/7	6/4
③	5/8	5/31	7/2
④	6/14	7/11	8/8
⑤	7/9	8/2	9/2

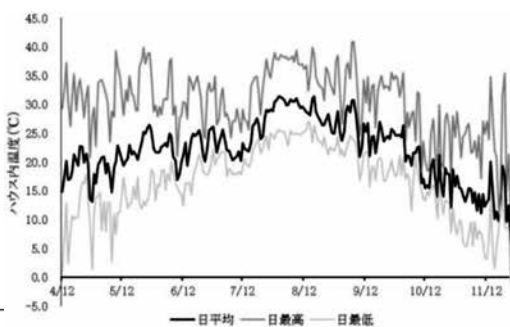
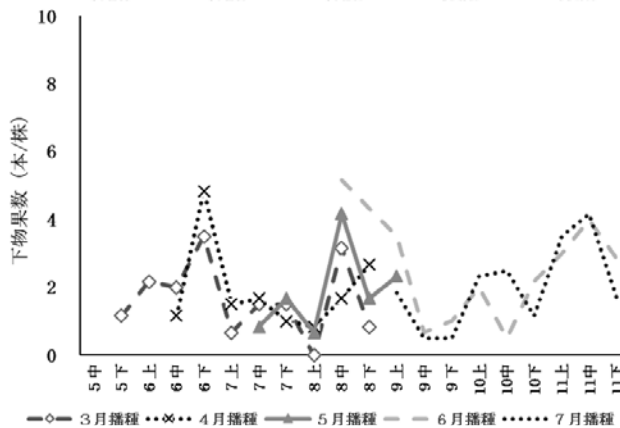


図3 ハウス内温度(4月22日～11月29日測定)

図1 「馬込半白」の可販果数(上図)および下物果数(下図)の推移

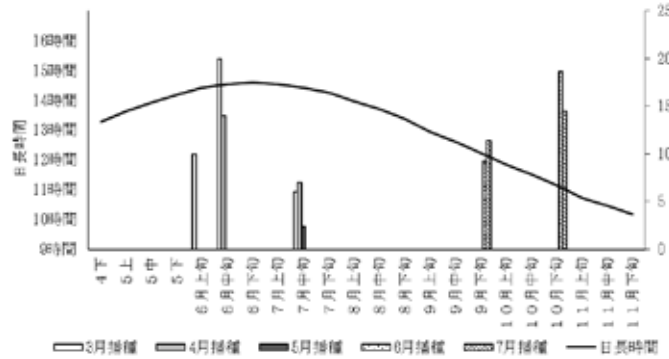


図2 日長時間および雌花数の推移

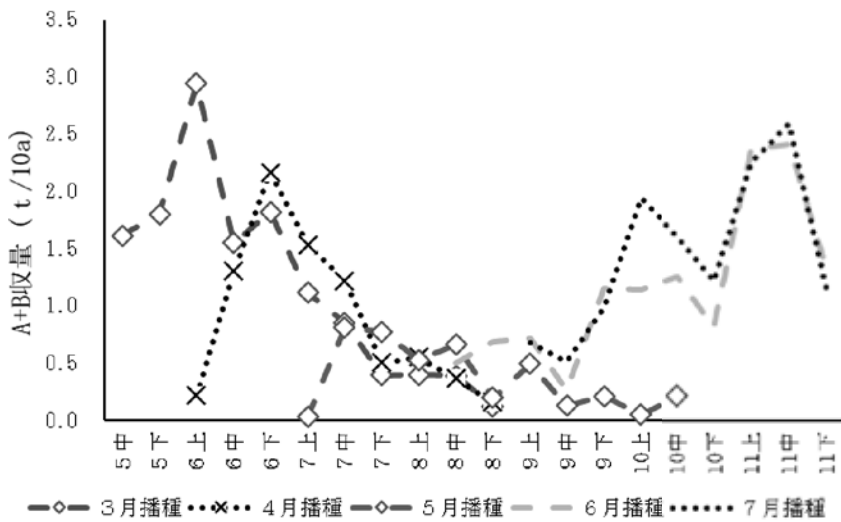


図4 「馬込半白」の可販果収量の推移